

のそゆぶねに、ゆ桶をまたにとり入て、それがうへに圍碁盤をうら返してをきて、むしろをひきおほひて、さりげなくて、たれ布につゝ、みたるわらをば、大門のわきにかくしをきて、まちゐたるほどに、二時あまりありて、僧正小門より歸をとしければ、ちがひて大門へいで、かへりたるくるまよびよせて、車の尻にこのつゝ、みたるわらをいれて、いゑへはやらかにやりておりて、このわらをうしのあちこちありきごうじたるにくはせよとて、うしかひ童にとらせつ、僧正はれいのことなれば、衣ぬぐほどもなく、れいのゆどのへいりて、えさいかさいとふすまといひて、ゆぶねへおどりいりて、のけざまにゆくりもなくふしたるに、ごばんのあしのいかりさしあがりたるに、尻ほねをあらふつきて、としたかうなりたる人のまに入て、さしそりてふしたりけるが、そののちをとなかりければ、ちかうつかふ僧まりて見れば、目をかみに見つけて、まにいりてねたり、こはいかにといへど、いらへもせず、よりてかほに水ふきなどして、とばかりありてぞ、いきのまたにおろくゝいはれける、このたはふれいとはしたなかりけるにや、

〔會津陣物語一〕上杉取立香指原新城事

前田慶次郎ハ加賀大納言利家ノ從弟ナリ、無隱兵ナレドモ、不斷ノ行迹ヲドケ者故、加州ヲ立除浪人タリ、此者ノ事語ルニ言ナク、記スニ筆ニ及バザル事ドモナリ、景勝○上へ奉公ニ出ル時ハ、法體ニテ穀藏院ヒヨツト齋ト名付、著物ニ幅袖ニシテ長袖ナリト稱ス、白四半ニ大フヘン者ト書タリ、○中白四半ニ大フヘン者ト書タルヲ、上杉家中平井出雲守、金子次郎右衛門咎テ、謙信以來武士ノ花ノ本ト、天下ニテ唱フル當家中ニ、押出タル大武邊者トハ、中々指物ニ指マジ、踏折テ捨ント匂リケルヲ、慶次ハ目モアヤニ打笑ヒ、サスガ田舎衆ナリ、文字ノ假名遣ヒ清濁辨ヘラレズ、我永浪人ニテ貧故ニ、大フベンモント申事ナリ、ヘンヲバ清テ讀ミ、フヲ濁リテ讀マル故ニ、皆皆腹ヲ立ラル、我指物ハ大フベン者ト申テ、大ニ笑ケレバ、上杉家中ノ士ドモ、興ヲサマシケルト